

大津町観光ビジョン（案） 想定施策

※ 各基本施策について、実施する可能性がある施策のイメージをまとめたものです。

基本施策 1 「現代の宿場町」の玄関口となる肥後大津駅周辺の魅力化

- ・肥後大津駅前を、情報発信・観光案内・二次交通の結節点として位置づけ、観光客やビジネス客が「降りた瞬間に迷わない／移動しやすい／立ち寄りたくなる」環境を整えます。
- ・県道 30 号（旧国道 57 号）沿いを含めた駅周辺地域を「現代の宿場町」の顔となる地域として、宿泊の核（夜の滞在）と、昼の立ち寄り（ランチ・土産・カフェ・短時間休憩）を接続する最重要拠点として磨き上げます。
- ・肥後大津駅から飲食店街や宿泊施設をつなぐ道路・歩道等の公共空間について、来訪者が安心して快適に回遊できる「ウォーカブルな（歩きたくなる）動線」の整備を進めます。具体的には、統一感のある案内サインや景観に配慮した修景、歩道空間の改善、夜間の歩行環境向上などを進め、ソフト面での「おもてなし」とハード面での「歩きやすさ・安全性」を融合し、駅からまちなかへの滞在・消費行動を促進することで、居心地が良く、回遊したくなる駅周辺空間の形成を目指します。

基本施策 2 宿泊・飲食・体験の連携強化

- ・宿泊施設と地元飲食店の共同企画や地域限定クーポンの発行、観光マップ・グルメガイドの整備などを進め、「泊まって・食べて・楽しむ」宿泊者の町内消費循環を形成します。
- ・同時に、阿蘇観光等を目的とした広域交通流に対しては、ランチ・ブランチ・土産・カフェ等の「立ち寄り」を取り込む商品設計（短時間で満足できるセット、駐車しやすい店、持ち帰りやすい土産、情報集約）を進めます。
- ・県内一の生産量を誇る高品質な「からいも」をはじめとした地元食材を利用したメニューの開発、郷土料理の提供、飲食事業者の育成支援などを通じ、食で選ばれる「現代の宿場町」を目指します。
- ・飲食事業者の業務効率化・省力化支援などを通じ、飲食事業者における人手不足を改善し、営業時間の延長など、飲食機能の強化を目指します。

- ・観光客への宿泊・飲食案内や店舗情報提供を担うコンシェルジュ機能を創設・強化するために必要な施策を講じます。
 - ・事業者と連携し、宿泊施設とまちなかを結ぶ民間主導型の交通手段の研究・導入・実証を進めるとともに、シェアサイクルの導入・活用やポート配置の最適化により、短距離移動の利便性向上と回遊促進を図ることで、町内における飲食をはじめとした宿泊者・観光客の消費や周遊を支える移動環境を整備し、持続可能な交通モデルの構築を目指します。
-

基本施策 3 宿泊・滞在環境の魅力化

- ・多様化する旅行者のニーズに対応するため、快適性と利便性を兼ね備えた宿泊環境の提供に関し、必要な支援策を検討します。
 - ・Wi-Fi・ワーキングスペースなどの業務環境に加え、夜や休日の飲食機能の充実、交流空間を整備する、リフレッシュ機能の充実に向けた民間投資の促進などにより、「仕事に便利で、アフター5も快適な町」としての滞在満足度を高めることで、出張・研修などの長期滞在や再訪を促し、平日の稼働率を安定的に維持します。
 - ・空港・熊本市間、空港・肥後大津駅間等の移動の結節点として、「前泊・後泊・乗継の拠点」としての受け皿機能（遅い到着・早い出発への対応、深夜帯の安心、軽食・土産等）を強化します。
 - ・公共施設、交通機関、観光案内などのアクセシビリティ向上を図り、年齢、国籍、身体能力などに関わらず、どのような属性を持つ来訪客も等しく恩恵を受けられる、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進します。
-

基本施策 4 広域連携と周遊型観光資源の活用

- ・広域的な流れの中で大津町を利用する観光客に対しては、昼間の通過を確実に立寄り（ランチ・土産・ランチ・休憩）、町内消費に結びつける導線設計（駐車・案内・情報・クーポン・店の見える化）を重点化します。
 - ・世界かんがい施設遺産、不知火光右衛門、ゾロ像、地元体験プログラムなどの周遊型観光資源を磨き上げ、広域ルートや地域ブランドと組み合わせて滞在価値を高めます。
 - ・観光バスやレンタカーが立ち寄りやすい駐車・案内環境の整備を推進し、通過から立寄り・滞在への転換を図ります。
-

基本施策 5 スポーツ・モビリティ滞在の拠点化

- ・スポーツの森・大津等、体育施設の整備などを通じて、町内の競技・合宿環境を段階的に向上させます。
 - ・整備が予定される県立総合体育館のアリーナをはじめ、近隣のスポーツ施設と連携した大会・合宿誘致を推進し、また、これらの大会・合宿や、本田技研工業(株)熊本製作所、HSR九州、オートポリスで開催されるモータースポーツ・モビリティイベントと連動してPRを行うなどにより、これらの合宿の見学、大会・イベントの観戦に伴う宿泊・立寄り需要を取り込みます。
-

基本施策 6 外国人観光客への受入環境整備

- ・宿泊・飲食・観光施設の多言語対応、キャッシュレス決済、Wi-Fi 環境の整備を支援します。
 - ・事業者向けの語学・異文化対応研修を実施し、外国人が安心して滞在できる環境を整えるとともに、国際線搭乗客を意識した誘客プロモーションや多言語によるプロモーションを通じて海外市場での認知度を高めます。
-

基本施策 7 住民との共生・快適な観光環境づくり

- ・観光客増加に伴い必要となる清掃・ごみ処理・トイレ整備・案内板整備・交通基盤の整備などを充実させ、住民と来訪者がともに快適に過ごせる環境を整えます。
-

基本施策 8 ブランド発信とプロモーション強化

- ・SNS・動画・多言語広報・旅行博出展・モニターツアー等の多様な媒体を活用し、宿泊・飲食・スポーツ・文化などの地域資源を「現代の宿場町」の物語として一体的に伝えます。
- ・特に、「泊まっても、立ち寄っても楽しい町」というコンセプトのもと、昼・夕・夜の時間軸でそれぞれの魅力を可視化し、滞在循環（夜）と立ち寄り消費（昼）を同時に生み出す戦略的プロモーションを展開します。
- ・大津町の宿泊施設が、熊本市や阿蘇といった広域的な観光エリアの中で存在感を高めるため、オンライン旅行予約サイト（OTA）運営事業者等に対し、働きかけを行います。これにより、熊本を訪れる来訪客が宿泊地として大津町を選択しやすい環境を整えます。
- ・大津町の魅力として、県内一の生産量を誇る高品質な「からいも」が挙げられます。この「からいも」を町の象徴として、大津町の充実した飲食体験をPRしていくとともに、大津町の全国的な知名度向上を図るため、マスコットキャラクター「からいもくん」の利活用を一層推進していきます。
- ・戦略的な広報・PRを継続的に実施し、認知度と誘客力を高めます。